

ニッケル

ニッケルのロンドン金属取引所(LME)相場は、1万5000—1万6000ドルあたりまで下値を押し下げるだろう。

7—9月は当初1万5000ドルが上値とみていたが、予想外の投機マネーの流入で急上昇し、8月には一時2万円に乗せた。世界的にスクラップ不足と思われていたことや、中国国内の民間需要が旺盛なこと、中国通関でのスクラップ滞貨などが重なり、地金需給を引き締めていたと考えられる。9月以降は需要も落ちつき、相場は1万7000ドル前後まで下がってきた。年内のステンレス生産は国内外で堅調といわれているものの、いまだに高値感はぬぐえない。

中国では国家備蓄で6万トン超、民間でも思惑で買ったニッケル在庫が積み上げられ、その数量は計十数万トンに上るといわれる。これにLME在庫が12万トンに達していることや、生産が需要を上回るとの需給予測から、在庫が過剰なのは明らかだ。年内は相場が上がるとは予想しにくい。

1万5000—1万6000ドルまで下押す



メタルドゥ社長

藤田 國廣氏